

「オンラインプログラムで培う力」

蓮見 桃子

皆様こんにちは。埼玉県・オハイオ州グローバルスピーカープログラム参加者の蓮見桃子と申します。埼玉県と米国オハイオ州との姉妹提携30周年を記念して今回新たに開講されたこのプログラムは、オンラインを活用することで「英語で発信する力」を身に付けることを目的としています。コロナ禍で現地への渡航が困難な中、このような貴重な機会をいただけたことに心から感謝いたします。約4か月に渡って実施されるこのプログラムは、8月18日から始まり、既に3回の授業と現地の学生との交流会が行われました。

このレポートでは、オンラインで行う授業の様子やフィンドレー大学の学生との交流の様子を皆様にお伝えしたいと思います。

オンライン講義について

私たちは日本から、フィンドレー大学のグレッグ先生による授業にZOOMを使って参加しています。このプログラムでは「日米の新型コロナウイルスへの対応の違い」をテーマに授業が行われます。

初回はとても緊張していたのですが、自己紹介の間に先生がアイスブレイクの時間を設けてくださったおかげで、リラックスした雰囲気の中で話すことができました。授業では、コミュニケーションを円滑に進めるために必要な Paul Grice の協調の原理 (Cooperative Principle) について学んだり、Hofstede の文化的次元理論 (Cultural Dimension Theory) をもとに日本とアメリカの社会を比較したりしました。

また、新型コロナウイルスの影響について参加者のディスカッションを交えながら理解を深め、一人一つ Final Presentation で担当するトピックを決めました。

The screenshot shows a Zoom meeting interface with a slide titled "Do you know your country? Yourself?". The slide displays a chart of Hofstede's Cultural Dimension Theory comparing Japan and the USA. The chart lists six dimensions, each with a scale from 1 to 100. Below the chart are the national flags for Japan and the USA.

Dimension	Japan	USA
Power Distance:	1	50
Individualism	1	50
Masculinity:	1	50
Uncertainty Avoidance:	1	50
Long-Term Orientation:	1	50
Indulgence:	1	50

Japan USA

フィンドレー大学の学生との交流会について

プログラムの一環として、フィンドレー大学に通う7名の学生とのZOOMを使った交流会が行われました。全員の自己紹介とアイスブレイクが終わった後、二つのグループに分かれ、新型コロナウイルスが生活に与えた影響についてお互いの意見を交換しました。オハイオ州は3か月ほどのロックダウンがあったため、フィンドレー大学ではZOOMを用いた全面オンラインの授業が実施されていたそうです。新型コロナウイルス感染拡大による大学生活の変化は、日本とアメリカでも似たような状況でしたが、マスク着用やワクチン接種に関しては大部分が個人の判断に委ねられている点に日米社会の違いが表れており、とても興味深いと感じました。

プログラムが開始して約一か月が経ちますが、自分の英語力不足やオンラインでのコミュニケーションの難しさを感じる 때가何度もありました。特に、全員の顔が画面に見えている状態で話し始めることに対して少し躊躇してしまう自分がいます。しかし、このOSGSプログラムはコロナ禍であってもアメリカと日本をつなぐことのできる素晴らしい機会です。英語での発信力を身につけるために、これからはより積極的に発言できるようにしたいと思います。